

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		チャイルドデイケアほわわ名古屋星ヶ丘					公表日	2025年 2月 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		・室内でもしっかり身体を動かせる広さを確保している ・活動室の広さを確保するために、電源コードの配置は天井ものを使ったり、移動の邪魔にならないように動線に気を付けている			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		・国の基準より多くの支援者を配置し、個々に応じた活動やケアを行っている ・子供同士の関わりが持てるような人員配置を心掛けている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		・建物全体がバリアフリーになっている。 ・特性に応じて絵カードや実物などの視覚情報を提示し、情報伝達を行っている	発達特性に応じた支援が出来るよう、研修等で継続的に学び支援者の専門的知識を増やせるようにする。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		・活動後の掃除や消毒を毎日行っている ・定期的にものや設備の破損や劣化がないか確認している ・活動に合わせて環境を整えるようにしている			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		・必要に応じて個室を使える環境である ・個人の特性に合わせて個室を使用したり、感染対策として使用することがある			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		・会議や日々のコミュニケーションを通して行っている ・月に1回、支援者全員で会議を行っている			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		・保護者評価を支援者間で共有し、真摯に受け止めて次年度の業務改善に繋げている			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		・日々の業務については日常のコミュニケーションや週1回の定期会議の中で業務改善について話し合っているほか、定期面談を通して行っている			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3		第三者評価は実施していない		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	3		法人内外の研修で学ぶ機会があり、参加している。			
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		今年度中に支援プログラムを作成し公表する予定である			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3		・日々の関わりの中で適切なアセスメントが出来るよう、ケア会議等でチームで利用者さんについて話し合い、支援を検討している ・保護者のニーズを面談や日々の関わりの中でお伺いし、計画に反映するように心掛けている			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		・チームで計画を検討している ・ご本人主体であることを大事に支援し、支援について月に1回支援者同士で話し合う機会を設けている			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		・支援者全員に計画を共有の上、毎日見ることが出来る場所に保管し、意識して日々の支援を行っている			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3		法人で定めたアセスメントツールを使用している			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		具体的な支援内容を設定するように努めている			

提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		行っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		・利用者さんが経験したいことをチームで考え、新しいことにも挑戦していけるように活動を検討している ・日々、プログラムが固定化されないように検討している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3		アセスメントの上、個別活動と集団活動を組み合わせて行うようにしている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		・毎朝ミーティングで確認を行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		・毎日支援後に振り返りを行っている ・その日に気になったことなどあれば、支援者間で共有を行うようにしている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		・利用記録の記載を毎日確認し、翌日以降の支援方法等の変更の検討に役立てている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		行っている	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		している。	利用児のサービス担当者会議がほとんど開かれなかったため、こちらからも開催を促して連携していきたい
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		・必要に応じて各機関と連携を図っている ・訪問医や主治医とは指示書・判定スコアのやりとりのほか、情報共有（ほわで経過している様子）を行っている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		・お互いに訪問して見学を行い、支援についての情報共有をしようなど、必要に応じて各関係機関と情報共有、連携を行っている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		・引継ぎ資料を作り、事前打ち合わせ等を行い情報共有を行っている	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		3		・地域の児童発達支援センターとの連携は行っていない為、必要に応じて助言を受けられるようにしていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3		・イベント時や不定期で地域の住民や商店街、保育園との交流機会を作っている	継続的な交流になるように、地域との連携を深めていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3		・送迎時や連絡帳、電話等を通して随時共有、相談、確認を行っている ・日々の申し送り以外にも、必要な場合には電話等でご連絡し、気になることや課題についてその都度お話するようにしている ・面談時には見通しを持って課題等について共通理解を持てるよう努めている	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		3		・プログラムとしては確立しておらず、個別に相談・助言を行えるよう努力しているが、プログラムとしては確立していないので家族向けの研修会等の機会を作っていけるよう検討していきたい。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		・年度の利用更新の際に、大事な点や変更点について説明している	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		・行っている	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3		・行っている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		・ご相談を受けた際には聞き取りの時間を作り、お話を聞かせて頂く ・迅速に対応できるように心掛けている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3		・イベントや保護者会を通して交流機会を設けている ・ご家族参加型のイベントで兄弟児が交流できる場を設けている	ニーズに応じて交流機会を増やしていきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		可能な限り迅速に対応するように努力している	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3		月に一度の会誌で情報発信を行っているほか、お手紙などを通じて予定のお知らせ等を行っている	ラインワークスを導入し、よりスムーズな情報発信や連絡が出来るようにしていきたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		契約時と毎年4月に個人情報の同意書にて確認し、項目に応じて留意して取り扱っている	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		・保護者に対しては、対面でお伝えするのか、文字で伝えるのか、内容と状況によって使い分けて確実に伝わるように心がけている。 ・利用児に対しては個別の特性に応じてコミュニケーションツール（イラストカード、視線入力）を検討・実践している	研修等で学ぶことを続け、個々に応じて実践できる幅を増やしていきたい
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3		・ボランティアやインターンの受け入れを行っている ・併設のカフェスペースにて地域の方を招いて行うイベントを企画している	地域との交流をより深めていけるよう検討を行う
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	1	緊急時対応について、個人ごとに保護者と確認の上作成し、6か月おきに内容確認を行っている。急変時対応や嘔吐処理についてはシュミレーション訓練を実施している。	・防犯マニュアルの策定が出来ていないため行っていきたい
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		非常災害に備え、備品や備蓄を揃え、避難訓練を行っている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3		・服薬についてはお薬手帳のコピーを頂き、変更の都度把握を行っている。 ・てんかん発作等の対応について、主治医、保護者と確認の上対応訓練を行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		主治医の指示と保護者と確認の上、対応を確認し、訓練を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		安全管理に気をつけて支援を行うようにしている	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		3		周知まで出来ていないので行えるようにしていきたい
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		インシデント・アクシデント報告書に記載の上、対策を必ず周知している	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		研修を行い、支援を振り返る機会を設けている	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3				